

# 幾世幾年

(大正二年寮歌)

木原均君 作歌  
柳沢秀雄君 作曲

## 一

幾世幾年流れけん  
永劫隔つ後までも  
洋々声なく野をこえて  
銀河に似たる石狩の  
岸辺静けき夕まぐれ  
導く星を仰がずや

## 二

巷の塵の跡を絶ち  
惰眠をさます雪嵐  
毘嵐万里をかけりては  
天地もゆらぐさまじさ  
万象淋しく装ひて  
蕭々寒き冬景色

## 三

めぐる月日の尾車や  
さざめく小河春告げぬ  
あはれ幸ある北の国  
緑が丘に打ち臥して  
薫る微風身にうけて  
常世の春を偲べかし

## 四

清き真理の渚より  
無窮を照らす最高の  
天つ光明を探り得て  
迷ひの羈絆解きほどき  
闇を排して永遠の  
理想の郷を拓く可し

## 五

一百意気みつ北蝦夷の  
健児よいざや奪ひ起て  
白き朔風われにあり  
曠野に練へし心身も  
歌へ壮なる勝歌を  
島根に高く勇ましく